

13. 出穂前のカルシウム補給～

穂肥から2週間後、出穂10日前頃には**田畑の大将〈赤〉**を施します。これが『美味しい米作り』の決め手です。出穂・開花に多量に必要なカルシウム栄養を補給して、登熟を進め、整粒歩合と食味を上げ、イモチ病を抑えます。

- 施用時期は 多少ずれても かまいません。
特にチッソ過多や葉イモチ病が見られた場合は 早めに施用してください。
- 通常は、**田畑の大将〈赤〉**の施用量は20kgですが、もし穂肥が効き過ぎてチッソ過多の場合(葉色板で5番以上)は30kgに増量します。一回で散布するよりも、出穂10日前と3日前というように2回に分施したほうが効果的です。
- 更に、**花咲くCa液500倍**の葉面散布をすると、チッソ過多やイモチ病の発生はかなり抑えることが出来ます。
- なお、葉色はさめて来るのが正常ですから、出穂前後～開花期に葉色が黄色くても、チッソ肥料を施すような事は決してしないでください。

田畑の大将〈赤〉は、足跡に水がある程度の浅水にして散布し、その後水を落して浸透させると効果的です。しかし出穂期にかかりますので、決して土を乾燥させないでください。この後(穂ばらみ期以降)から出穂・開花期の水管理は深水(8cm深)とします。とくに寒冷地では保温のために深水を溜めておきます。

いよいよ出穂します。「出穂日」とは、僅かでも穂が出た茎が、全茎数の半分(40～50%)に達した日とされています。



出穂日



田畑の大将〈赤〉カルシウム栄養が十分に効いていると、出穂から5日以内に、全ての籾が開花します。通常は基部に開花しない籾が多く、不稔粒・小米・クズ米になります。それがほとんど無いので、**田畑の大将〈赤〉**を施用した田圃は増収になります。

出穂後

【出穂後の葉面散布】

稲の姿は草丈90cmくらい、茎が硬く、葉が立っていて、葉色はさめて来ているはずです。出穂以後、刈取りまでは、根を動かすような施用は一切しませんが、出来れば葉面散布すると、きわめて効果的です。

- ① 特に美味しい米を作りたい場合、チッソ過多
やイモチが心配、登熟を促進する場合



花咲くCa液

- ② 特に米の粒張りをよくしたい場合、秋落ちや
肥切れが早過ぎ、少し肥料がほしい場合



アミノ酸液

どちらかを500倍に希釈して、10アール当り水量100~150ℓを散布します。(混合しない)
特に高温、強風など天候異変で籾の水分が蒸発しやすい時は、どれか葉面散布を
すると登熟歩合が非常に良くなります。

開花以後は間断灌水、むしろ走り水にして溜めないほうが良い田が多いようです。
特に日照が強い場合は、もし水を溜めると熱湯になって、高温障害で葉が赤く枯
れることがあります。常に土の表面が濡れている程度にします。

登熟期には落水しますが、あまり早くから土が乾き過ぎると下葉が枯れ上がり、登
熟歩合が悪くなります。籾が乾燥しないように、遅くまで湿り気を持たせておくほ
うが良い収穫が得られます。